

評価項目	具体的な方策（P）	結果と課題（D）	自己評価(c)		改善策（A）	学校関係者評価		
			項目別	総合		評 価		コメント
						項目別	総合	
1 学力向上 * 教務部 * 進路指導部 * 教育相談部 * 情報広報部	①3年間を見通した南高スタイルによる教科指導の充実 ・各学年に応じたきめ細かな指導体制の確立 ・55分授業の導入に伴い、定期考査間の授業時数を調整する。	●55分授業の移動コマを年間行事予定に配置したが、月ごとに連絡会等での周知が必要。 ○鵬DP（ルーブリック評価）を作成し、定期考査に評価問題を作成した。 ●年間では、各科目の授業時数は均等になっているが、2単位科目について配慮の必要がある。			・授業時間数のバランスのよい配置を研究する。 ・評価表が、実践的なものとなるよう工夫していく。	3		○方策立案から実践へのご尽力に敬意を表します。
	②難関校を目指す生徒への組織的な指導の充実 ・プロジェクト委員会による数値目標の設定と達成 ・ハイレベル講座やチームによる指導の実施	○難関大学を目指す生徒の指導を組織的に行った。働き方改革の推進に伴い精選が必要である。 ○学力上位者に対しては、放課後の時間を利用して南セミナーを実施したり、朝補習で習熟度別演習を実施している。 ○フロンティア科に探究コースを設定し上位層の育成を図った。 ●南セミナー（2年）の実施にともない上位者の掘り起こしを行った。部活動との兼ね合いもあり掘り起こしは難しい。	3	3	・年度毎に目標値との差を分析することにより、指導方法の改善や目標値の再設定を行う。 ・生徒の立場から時間の有効活用を図る取組を推進する。 ・探究活動の成果を進路指導に直結するための研究に取り組む。	3	3	○進学実績だけがすべてではないが、普通科高校としては避けられない。多くの大学進学を出すことことはもちろん難関大学の実績もほしい。
	③基礎学力定着指導の徹底 ・プロジェクト委員会による企画 ・自主学習の定着指導と部活動との両立支援 ・家庭学習の目標時間を設定し、課題を活用した自宅学習の定着と主体的な学習姿勢の養成	○鵬DPの各教科別の作成に取り組んだ 今後、教師からの評価と生徒自身の自己評価を様々な場面で実施していき学力の向上を図りたい。 ○鵬DPの評価方法や問題作成等継続的に検討していく必要がある。 ●55分授業を1年間実施してきた。生徒、教師ともに概ね好評である。ただ、午後5時までの生徒の主体的な活動の時間を生徒に保証していきたい。	2		・学校での自学自習の時間を作り、家庭での学習の仕方を教科毎に指導する。さらに、家庭学習の成果を評価する仕組みを構築する。 ・放課後の17時までの時間が生徒の主体的な取り組みとなるよう研究を行う。	3		
2 進路目標の達成 * 教務部 * 進路指導部 * 渉外部 * 情報広報部 * 図書部	①進路指導体制の充実 ・国公立大学推薦入試制度の積極的な活用 ・朝補習、放課後セミナー、土曜補習の計画的実施 ・小論文指導(図南タイム)による進路実現に足る文章表現力の強化 ・新しい入試システムへの早期対応 ・大学の教育力の活用 ・高大連携による探究型活動の推進と拡大 ・出前講座、宮大教育セミナーの活用	○大学入試システムにおける英語の業者テストの導入が先送りとなったが、個別の大学入試では、英検等の資格の提出が求められている。変化に柔軟に対応していくために今後とも情報収集を行っていく。 ○朝補習等は、希望生による実施が、本格的になった。 ○入試システムに関する様々な情報を収集しつつ、並行して本校での対策も確立しつつある。 ○宮崎大学、宮崎産業経営大学、宮崎国際大学、南九州大学とも連携協定を締結した。 ○探究活動において各大学と協働して行うことができた。しかしながら課題も多く次年度はその解決に当てる必要がある。 ○普通科、フロンティア科を含めて、12月27日に72テーマのポスターセッションを実施した。 ○進路ガイダンス、宮崎大学教育学部の連携事業も実施し、3カ年での流れが確立できた。	3		・土曜補習については、他校の現状を踏まえ改善を図る。 ・多様な入試に向け、全職員で共通理解を深める場を提供していく。 ・入試に関する情報の整理と、共通理解をするための取組を行う。			○制度が定まらず難しい対応を迫られるが、柔軟な対応を期待する。 ○地元に残る人材を増やすことは、地域のためにも重要である。
	③特化した進路指導体制の確立 ・指導者を目指す生徒の育成 ・鵬ドリカム講座やPTAと連携したキャリア教育の実践 ・教師を志望する生徒に対する宮大教育学部との連携の効果的な活用	○指導者を目指す生徒の育成については、具体的な事はできていない。 ○キャリア教育推進委員会を中心に円滑に実施できており、生徒の進路選択の助けになっている。 ○教師みらいセミナーは、毎回充実した内容で実施されており、生徒の意識の高まりがみられる。	2		・教育、看護系を希望する生徒が多く、他の職種について知る機会を増やしていく。 ・教師みらいセミナーの分担 ・同窓会、PTAとの連絡をさらに密にし更なる充実を図る。			○部活動を通して目標達成のため努力し、成果を出すことの大切さを学んでほしい。それを受験につなげる仕組みが必要か。 ○広い視野を身につけてほしい。 ○学力向上の取り組みはすぐに結果が出るものではないので引き続き充実させてほしい。
3 豊かな人間性の醸成 * 生徒指導部 * 図書部 * 環境美化部 * 保健安全部 * 教育相談部 * 渉外部	①部活動の更なる活性化 ・南高生としての帰属意識の育成 ・ハイレベルな文武両道達成のための職員の共通理解の推進 ・部活動生集会、キャプテン会の活性化	○部活動の好成績より、活気ある学校となり帰属意識も高まった。 ○部活動派遣規定改定で、部活動生の定期テストへの取り組みが良くなってきている。 ○部活動単位による、清掃活動やボランティアへの参加、学習会をおこなっている。 ○キャプテン会や部活動生集会を通して、主体的に活動できる部活動生の育成に努めた。 ○職員と部活動生との交流会を実施できなかった。	3		・ハイレベルな文武両道について、理解・認識を、生徒・職員ともに深めていく。 ・交流会については、探究活動との時間調整を図り、実施していく。	3		
	②キャリア教育・人権教育等による人間教育の推進と人間力の醸成 ・インターンシップ・ボランティア活動等の推進 ・人権教育とピアサポートの充実 ・学校生活アンケートの活用による生徒理解と早期対応 ・主権者教育の充実 ・「朝の読書」活動の推進 ・学校司書エリアコーディネーターを中心とした図書室の充実 ・主体的な清掃活動による環境美	○インターンシップは、探究活動に連動させ、地域の課題等をより深く理解する必要のあった生徒を中心に企業と連絡を行い実施した。目的意識を持った生徒が積極的に参加した。 ○アサポート活動は計画通りに実施できたが、その効果の検証は難しい。 ○宮崎大学主催のトップリーダーの講演会に生徒が積極的に参加した。都城市長の時は100名以上の宮崎市長の時は、200名以上の生徒が参加し、積極的に質問していた。 ○学校司書エリアコーディネーターは、現在、授業に必要な本の購入、書架等の整備等の業務をを中心にお	3	3	・企業との連携を推進し探究活動の一環としてのインターンシップを増やす。 ・毎日の清掃活動に、生徒の主体的な取り組みをいれ、主体的に清掃に取り組む生徒を育成していく。	3	3	

	化意識の高揚 ・LGBT等の意識の高揚	こなっている。 ●トイレ等施設の老朽化もあるが、汚したら自らきれいにするという意識にける生徒もいる。			・心の教育の必要性がある。毎日のHR等に取り入れる研究をする。 ・生徒主体の行事の企画立案をさらに推進する。 ・生徒が主体となつての校内規程の作成を推進する。	3	○自主自立で生徒が充実した活動をできるように期待する。 ○母校への愛着を様々な視点でアピールしてほしい。
	③生徒の主体性を重視した取り組みの推進 ・生徒会活動やリーダー研修会の更なる活性化 ・鵬祭等の学校行事の企画・運営を通した主体性の育成 ・自他の健康に興味関心を持たせる健康教育の推進	○生徒会活動については、本年度は、五ヶ瀬中等教育学校へ生徒会を中心に各部のリーダーを派遣した。地域との協働について先進的な取り組みを研修してきた。	3				
4 保護者・地域との連携推進 ＊渉外部 ＊事務部 ＊情報広報部 ＊教務部	①広報活動の活性化 ・「学校案内」の大幅改訂、や「PTA新聞」の有効な活用	・広報関係を、各分掌から情報広報部に移行し、学校案内パンフレット、地域回覧板、広報用ポスター、中学校別ポスター等の作成により、学校の情報を地域に発信できた。	3		・次年度は学校紹介のパンフレットの作成に生徒の意見を積極的に取り入れていくことを検討している。	3.4	○学校の取り組み、生徒の活躍、連携活動などメディアを通した広報は拝見・拝聴する機会も多く、幅広くアピールにおいて効果の出ていると思います。 ○近隣小中学校PTAとも連携して登校時の安全を確保してほしい。 ○レベルアップ学習会の成果を期待している。
	②PTA活動の充実 ・役員会、理事会、学年会、各委員会活動の活性化 ・PTA主催事業の組織的・計画的推進	○鵬合格うどんは、盛大に実施できた。 ●卒業を祝う会は、新型肺炎のため中止となった。次年度以降の検討が必要。 ●田吉池の埋め立て工事が始まり、生徒の通学路の変更が必要となった。そのためPTAによる朝の登校指導を実施した。 ●今後2年間ほど田吉池の工事が行われるため、登下校の安全を図る必要がある。	3		・地域自治体との協働で近隣の登下校の安全を図る。	3.2	
	③同窓会との連携協力推進 ・同窓会理事会との連携による情報の共有化 ・ドリカム講座の充実	・同窓会奨学制度「福田育英会」の保護者への周知の徹底。 ・「レベルアップ学習会」を今年度も2回実施し、学力へのサポートも強力におこなっていただいた。	3	3	・次年度「レベルアップ学習会」は、3年生に2回、2年生に1回実施予定。	3.4	
	④中高連携の推進 ・中学校主催の高校説明会への積極的な参加 ・授業公開期間とオープンスクールの効果的な実施	・高校説明会へは管理職を中心に積極的に中学校へ出向いた。 ・オープンスクールは多数の来校者があるが、授業公開には見学者が少ない。 ・学習塾主催の中学2年生の生徒保護者への説明会に積極的に参加した。	2		・オープンスクールの日程調整を宮崎市内の高校と調整を行い中学校に連絡する。	2.6	

(注) 4段階評価 ・ ・ ・ 4：期待以上 3：ほぼ期待どおり 2：やや期待を下回る 1：改善を要する